

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
			具体的な方策	評価の観点
1 教育課程 学習指導	(1) 生徒の個性や創造性を伸ばし、意欲や探究心を高める6年間の一貫した教育課程編成に取り組む。  (2) 思考力・判断力・表現力及びコミュニケーション能力の育成を図る組織的な授業改善に取り組む。	(1) 創立からの教育課程を検証し、生徒の意欲や探究心を高めるカリキュラム開発を行う。  (2) 「問う力」「アクティブラーニング」をテーマとした研究に学校全体で取り組み、授業改善を図る。	(1) ①次期学習指導要領及び大学入試制度改革に関する教員研修会を実施し、情報を共有するとともに、授業時間の確保を含む新たな6年間の教育課程を検討する。 ②学力の定着・向上を図り、生徒の進路実現を達成するため、各種講習（土曜講座・夏期講習・課外講習）の充実を図る。 ③卒業課題研究・発表を充実させるために、プレゼンテーション・スキル講座や小論文講座を充実させる。 ④第一希望の進路実現に向けた学習意欲を高めるため、模擬試験や定期テストの振り返りを充実させる。	(1) ①次期学習指導要領及び大学入試改革に関する研修会を実施し、情報を共有できたか。また、新たな6年間の教育課程編成に着手できたか。②生徒のニーズを踏まえた各種講習を配置できたか。 ③生徒は、プレゼンテーションスキル講座や小論文講座で学んだことを課題研究や卒業研究に活かされたか。 ④模擬試験や定期テストの結果を活用し、個々の学習目標を自ら設定し、学習意欲を喚起できたか。
			(2) ①「言語活動の充実」を図り、生徒の学習意欲を高めるとともに、教育活動全般において、アクティブ・ラーニングによる「問う力」及び「課題解決力」の育成を図る。 ②知識を活用する授業の工夫について、学校全体のテーマを踏まえた教科テーマを設定し、年間を通した授業研究を実施する。	(2) ①授業の工夫により、生徒の学ぶ意欲を高めることができたか。授業や発表の中で、生徒が主体的に「問う」ことができ、生徒一人ひとりの「思考力・判断力・表現力」を育成することができたか。 ②学校全体のテーマを踏まえた教科のテーマを年間を通して計画的に実施できたか。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	(1) 生徒一人ひとりの特性や抱える課題を見極め、問題解決に向けて、組織的な生徒支援体制を構築する。  (2) 平塚中等生として誇りを持たせ、自覚を促す生活規律を確立し、思いやりの心を持ったリーダーを育成する。	(1) 生徒一人ひとりの課題を迅速に見極め、問題解決に向けて、組織的な支援体制を確立する。  (2) 平塚中等生としての誇りと自覚を持たせ、生徒一人ひとりの規範意識の醸成を図り、思いやりの心を持ったリーダーを育成する。	(1) ①教育相談等の面談を通し、生徒一人ひとりの状況を迅速に把握し、適切な支援に取り組む。また、保護者やスクールカウンセラーと連携を密にし、必要に応じて外部機関とも連携し、生徒・保護者を支援する。 ②支援チーム・情報交換会・ケース会議のあり方を整理し、効果的な支援組織を構築する。	(1) ①生徒が抱える課題の早期発見に努め、適切にその課題に対応することができたか。②支援チーム・情報交換会・ケース会議のあり方を整理し、効果的な支援組織を構築することができたか。
			(2) ①スチューデント・メンターによる活動をさらに活性化し、後期生が前期生を導くことにより、思いやりの心を持ったリーダーを育成する。 ②平塚中等生のあり方について生徒と話し合い、豊かな人間性と社会性を身に付けることの意義を明らかにすることで、自ら規律を守る意識の醸成を図る。	(2) ①スチューデント・メンターの活動内容や活動機会のさらなる充実を図ることができたか。 ②各種アンケートの分析により、生徒一人ひとりに自ら規律を守る意識を持たせることができたか。
3 進路指導・支援	(1) 多彩な体験活動を通して、豊かな人間性と次世代を担うリーダーを育成するとともに、生徒一人ひとりの進路実現に向けて、生徒が意欲的に取り組めるように支援する。	(1) 6年間の系統立てた多彩な体験活動により、豊かな人間性を備えたリーダーを育てる。  (2) 進路指導の充実により、生徒の目的意識を醸成し、第一希望の進路実現を図る。	(1) ①学校行事、委員会活動、部活動などを通して自立した社会観、リーダー性のある生徒の育成を図る。 ②セカンドステージに向けて6年間のキャリア教育プログラムの再検討を行う。 ③かながわ探究、オリエンテーション合宿、イングリッシュキャンプ、東京校外学習、国内・海外研修旅行等の活動を効果的・系統的に企画・運営・実施する。 ④PTAとの連携などにより、キャリアプランニング能力を育成する効果的な職業体験や職業紹介を行う。	(1) ①翠星祭等の学校行事、委員会活動、部活動等で、生徒が社会性を意識して主体的に活動し、リーダー性を発揮する場面が設定できたか。 ②セカンドステージとしてのキャリア教育プログラムを再構築することができたか。 ③生徒の自立を促す活動を効果的に企画・運営できたか。体験報告書による実施成果を適切に検証できたか。 ④PTAとの連携などにより、効果的な職業体験や職業紹介を行うことができたか。
			(2) ①進路講演会、大学模擬授業、分野別進路説明会、大学キャンパスツアーなど、生徒の希望進路に対応した多彩な学習機会を提供し、各自の将来像を考えさせる。 ②進路相談室や自習室の機能を整備し、外部機関も含めた進路指導体制を強化する。	①進路希望に対応した各種の学習機会に、生徒が主体的に参加できたか。 ②進路相談室、自習室の機能を整備することで、進路指導体制が強化し、生徒への指導の充実が図られたか。
4 地域等との協働	(1) 積極的に情報発信をするとともに、地域との協働を進め、地域・保護者に信頼される学校づくりを推進する。	(1) 地域への情報発信を積極的に行うとともに、地域との連携、行事への参加、交流を推進する。	(1) ①地域・保護者と連携した防災への対応準備を行う。 ②地域貢献活動の時期・計画を早めに決定し、学校周辺の清掃活動を行うとともに、ボランティア活動に積極的に参加する。 ③平塚ろう学校との交流の内容を一層充実させ、両校の行事（文化祭）の訪問・授業参観を継続実施する。また、盲学校との連携も充実させる。 ④学校ホームページや校門外掲示板を利用し、学校情報の広報をさらに充実させる。また外部メディア（県HP、マスコミ等）を活用し本校の取組をPRする。 ⑤効率的かつ効果的な学校説明会を実施する。特に生徒主体の学校紹介や施設見学の方法・内容を検証し、さらなる改善を計画・実施する。 ⑥本校の研究テーマに沿った研究紀要を発行するとともに、授業研究発表会を企画・実施する。	(1) ①地域自治会と避難所運営等に関する課題についての確認ができたか。 ②大原小学校との連携等、地域貢献・ボランティア活動の内容を安全面に配慮した形で計画・実施できたか。 ③手話講話をはじめ、両校の行事（文化祭）の訪問・授業参観等、平塚ろう学校との交流を一層充実できたか。また、盲学校との連携も充実させることができたか。 ④ホームページや校門外掲示板をタイムリーに更新し、地域に学校の情報を発信することができたか。また、外部メディアを活用し、本校の取組をPRすることができたか。 ⑤効率的かつ効果的な学校説明会を実施できたか。また、生徒が主体的に学校紹介、施設見学を実施できたか。 ⑥研究紀要の発行と授業研究発表大会の開催により、本校の取組成果を発信できたか。
			(2) ①業務の改善を検討するとともに、主体的に参加できる事故防止会議を企画する。また、あらゆる場面で相互啓発活動を継続し、教職員の「意識」に呼びかける。 ②「チーム学校」を構築するため、学習指導要領改訂や大学入試改革等の教育環境の変化に対応した校内研修会を開催する。	(1) ①事故・不祥事ゼロプログラムを計画通り実施できたか。 ②教育環境の変化に対応した校内研修会を開催することができたか。また、それにより職員一人ひとりが学校運営に対して意欲的に参画できたか。
5 学校管理 学校運営	(1) 職員一人ひとりが事故不祥事防止に努め、自校に愛着を持ち、前向きに学校運営に参画することで「チーム学校」を構築する。 (2) 生徒、職員の防災意識の醸成を図り、安全で安心な学校づくりを推進する。	(1) 事故不祥事防止を徹底し、職員一人ひとりが、意欲的に学校運営に参画できる「チーム学校」を構築する。 (2) 防災意識の醸成や、緊急時の対応力の育成を図る。	(2) ①防災訓練の充実と実用的で分かりやすい防災マニュアルの見直しを行う。	(2) ①最新の学校防災活動マニュアルに更新し、防災意識や対応力の育成ができたか。